

ロングブームポンプ車を導入

ヤマコン 新国立競技場へ投入視野



「コンクリート圧送業大手の

う。

ヤマコン（山形市、佐藤隆彦
社長）は、アーム長46mの大
型コンクリートポンプ車を導
入した。今後、新潟県内の橋
梁整備で活用するほか、9月
末には新国立競技場の現場へ
の投入も計画している。

現在、同社の主力として活
躍しているポンプ車はアーム
長36mが中心で、生コンの圧
送はビルの11階程度の高さま
でにとどまる。今回導入した
車両は、16～17階の高さまで
圧送可能で、高層建築物や地
下構造物建設時の立坑整備な
どでの活用が期待できるとい

う。 同型の車両は、その大きさ
から日本国内の道路通行に当
たり、特殊車両申請が必要と
なり、車体のサイズや重さな
感覚で使用できる」とからい
う。

機動力に優れる点が強みだ。
車両はドイツのアツマイス
ター社製で23日、本社に納車
された。納車式に立ち会った佐
藤社長は、東京五輪関連や発
電所設備の建設など、土木・
建築面分野の大型工事で活躍

したポンプ車の開発・供給を
E.O.も「日本の市場にマッチ
したポンプ車の開発・供給を

通じて建設現場の生産性向上
に寄与していただき」と語っ
た。

記念撮影する佐藤隆彦社長（左か
ら5人目）、佐藤社長（同4人目）
とケノートケン（同3人目）

この日、同社を表敬訪問し
たアツマイスター社のマーチ
ー・クノートケン・グループC
EOも「日本の市場にマッチ
したポンプ車の開発・供給を
通じて建設現場の生産性向上
に寄与していただき」と語っ
た。